

令和2年度 いわき市立小名浜第一小学校 学力向上プログラム

＜本校の教育・児童の実態＞

- 素直で積極的に行動するタイプの子が多い。
- エネルギー環境教育、放射線教育の推進校。
- 学級において学力の個人差に広がりがある。
- 「話す能力・聞く能力・読む能力を育てる必要がある。」
- 家庭の協力が必要である。

「PISA型読解力の指導に向けて」

- テキストを理解・評価しながら読む力を高める取組の充実
- テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める取り組みの充実
- 様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会の充実

- ◎テキストを単に読むだけでなく、考える力と連動した形で読む力を高める取り組みを充実させる。
- ◎テキストの内容を要約・紹介したり、再構成したり、自分の知識や経験と関連付け意味付けたり、自分の意見を書いたり、論じさせたりする機会を設定する。
- ◎目的や条件を明確にして自分なりの考えを述べたり、論理的・説明的な文章に対する自分なりの意見を書いたりする機会を設定する。
 - ・読書の推進
 - ・自分の意見や心情を表現する場の設定
 - ・相手に伝わるような話し方や書き方

「研修の機会の充実に向けて」

- 現職教育の場の活用
- 外部講師及び各種機関との連携

- ◎年数回の全体・ブロックによる研究授業の活用
- ◎様々な研修の場の活用

＜今年度、力を入れていくポイント＞

〈学び愛（合い）・思い愛（合い）・認め愛（合い）〉

- 1 自ら学び、自ら考え、判断し行動できる子どもの育成（生きる力）
- 2 相手の気持ちを思いやり、友だちのよさを見つけられる子どもの育成（共生感覚）
- 3 今の自分に自信が持て、自分を大切にできる子どもの育成（自尊感情）

教育目標

真剣に学ぶ子 思いやりのある子 体も心も強い子

「1単位時間の授業の充実に向けて」

（授業をつくる16の視点から）

- よい学習課題を設定する
- 「めあて」と「まとめ」の整合性
- 「共有」と「吟味」の活動を入れる
- 振り返りの場を設定する
- 基本的な授業要素を踏まえる

- ◎追究する価値のある課題や追究しようとする意欲がわく課題の設定
- ◎教師の「教えたい」を子どもの「学びたい」に変え、見通しをもつ場と振り返る場の設定
- ◎共有させたいことの焦点化と吟味の活動の設定・構想
- ◎振り返り活動の工夫
- ◎板書の工夫・発問の工夫・ノート指導

＜学校経営ビジョンから＞

- 日々の授業を充実させ、授業の質を高める。
 - ・PISA型読解力向上の指導
 - ・課題解決学習、体験的学習の重視
- 家庭学習の習慣化を図り、学習習慣の形成を目指す。
 - ・家庭学習と授業との関連を進め、「自ら学ぶ楽しさ」の体得を目指す。

「学力向上タイムの充実に向けて」

- 毎週、火・木曜日の朝の時間
- 月曜日の6校時の運用（3学年以上）
- 定着確認シートの活用（4学年以上）
- 全国学力・学習状況調査の分析

- ◎全国学力・学習状況調査及び福島県学力実態調査の分析
 - ・今求められている学力の把握と共有化
- ◎学力向上員会の定期的な開催
 - ・各学年の取り組みの良さの共有化や学年の系統性の確認
- ◎短時間の枠組みでできることの検討
 - ・ドリルや市販の問題集の活用
 - ・算数クイズ
- ◎「授業スタンダード」や定着確認シート、フォローアップシートの活用
 - ・児童の実態把握と授業の改善

「家庭学習の習慣化に向けて」

- 家庭学習習慣化プログラムの活用
- 低学年30分、中学年45分、高学年60分の家庭学習
- 「家庭学習スタンダード」の活用

- ◎自主学習ノートによる学習の日常化
- ◎授業の復習や日々の新出漢字の指導、音読カード等の活用
- ◎学年×10分を意識した家庭学習
- ◎自分の夢や希望の意識化、明確化